

平成30年10月22日

熊本県知事
蒲島 郁夫 殿

環境省 九州地方環境事務所長
岡本 光之 殿

日本ベントス学会 自然環境保全委員会
委員長 松政正俊

熊本県における特定外来生物ヒガタアシの駆除強化に関する

要望書

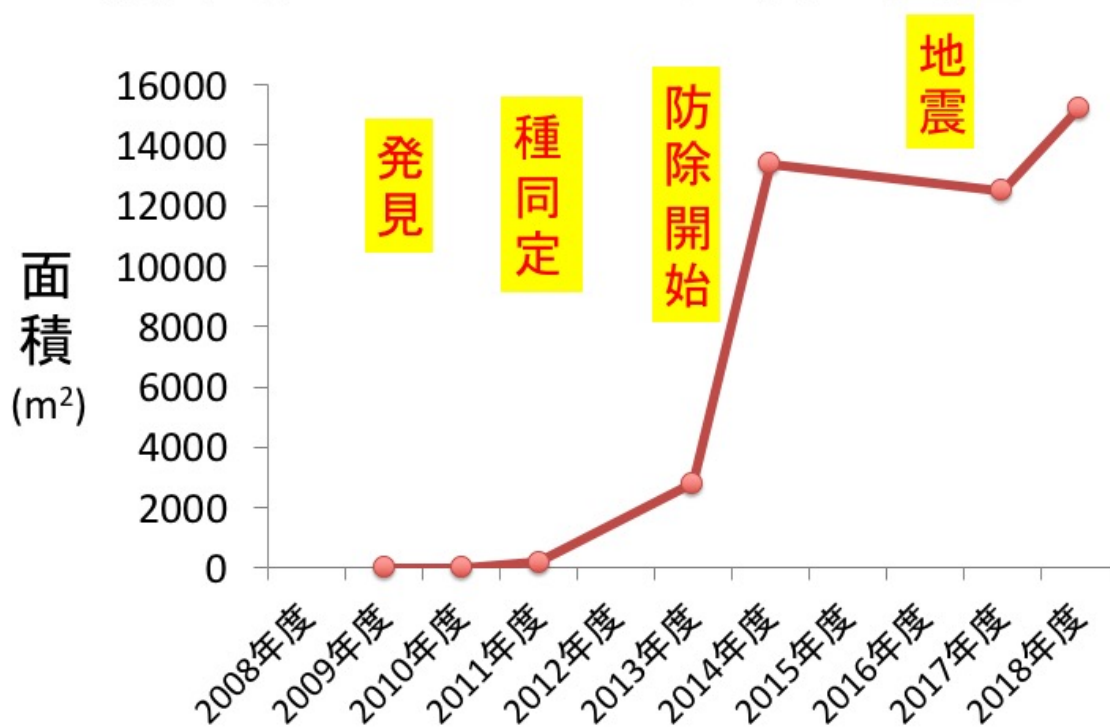
環境省の指定する特定外来生物ヒガタアシ（スパルティナ・アルテニフロラ）は、干潟に繁殖するアメリカ原産のイネ科植物であり、世界的な侵略的外来生物にも含まれている繁殖力の大変強い外来生物です。国内では熊本県と愛知県の2県で侵入が報告されています。

熊本県では2009年に大野川で初めてコロニーが発見されて以来、大野川、白川、坪井川、砂川で侵入が確認されています。白川と坪井川では2013年以降駆除が進んでいる一方、大野川では駆除がほとんどなされず、年々生息面積が増加し、現在合計1.5万平方メートルに達しています（図：熊本県のヒガタアシ面積の変遷）。今後も生息地での分布拡大は確実であるだけでなく、種子や草体破片による有明海全体への分布拡大、さらに県内外の水産物搬入地への拡散が懸念されます。

本種は在来植物の生息できない塩分の高い干潟上にも繁茂できることが特徴です。本種の侵入で干潟が覆われることにより干潟の環境は大きく変化し、干潟の泥の表面や土中に生息しているムツゴロウなどの魚類やアサリなど貝類に大きな影響を与えます。これはこれらを採集する漁業や、干潟面を活用する海苔養殖漁業に大きなダメージを与えることにつながり、中国ではすでに漁業被害が出ています。また分布の拡大により、ヨシなどの在来の植物と混在、競合し、駆除は時間が経つほど困難になり、駆除費用は膨大になります。現状は一刻の猶予もありません。

本種の防除方法を早急に見直し・確立するとともに、防除を進め根絶をしていただきますよう、強くお願い申し上げます。

熊本県のヒガタアシ面積の変遷



参考資料

「平成23年度 九州地方（地域）干潟等沿岸部外来種侵入状況調査」（九州地方環境事務所，2012年）

「平成26年度 スパルティナ属調査等業務」（九州地方環境事務所，2015年）

「熊本県環境生活部環境局自然保護課資料」（熊本県未発表資料，2018年）